

## 混声合唱へのステップ「大切なもの」

本題材で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力, 主体的に学ぶ力, 他者とかがわる力

## 題材について

## ○題材観

本題材は、学級で混声合唱に取り組む中で、合唱表現の豊かさや美しさを感じ取らせ、合唱の楽しさを味わわせることをねらいとしている。また、第1学年の音楽学習における合唱活動を基盤として、さらに確かな表現の技能を身に付けさせ、豊かな音楽表現ができるようにすることを意図している。本題材は、学習指導要領音楽編の内容「A 表現(1)ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと」「A 表現(1)ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと」に基づき設定している。扱う〔共通事項〕は旋律、テクスチャ、強弱とする。

この題材の目標を達成するために、教材曲「大切なもの」を用いる。この教材は、9月の文化発表会での合唱コンクールの自由曲として歌うことを予定しており、本題材の学習成果の発表の場として位置付けている。教科の学習の成果が学校行事の中で生かされるという点において、生徒の学習意欲も喚起されるものと考えられる。

## ○生徒観

102Rは、男子21名、女子19名、計40名の学級である。ソプラノパートは10名、アルトパートは9名、男声パートは21名である。本学級の生徒は、明るく前向きに音楽活動に取り組むことができる。しかし、音楽への苦手意識がある生徒も少なくない。下記の表は、生徒アンケートの結果である。

1. 音楽の授業はわかりやすいと思う。	87.2%
2. 自分は音楽の授業の復習をしている。	79.5%
3. 自分は音楽の授業の予習をしている。	64.1%
4. 自分は音楽の授業が楽しみである。	79.5%
5. 音楽の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。	82.1%

授業を行う中で、前時で身に付けた歌の音程を忘れてしまっている生徒が多いと感じる。

1学期は、「パフ」の歌唱活動を通して、混声二部合唱を学習した。「自分がどの音を歌うのかわからなくなる」や「自分の歌っている音が正しいのかわからない」、「他のパートの音を聴く余裕がない」など、複数の声部に分かれて、合わせて歌うことに苦手意識をもつ生徒は多い。

歌詞の内容が表す心情などに思いを寄せて歌う活動では、生徒が自らの考えをワークシートに記入し、表現の工夫のための意見交流をすることができた。

## ○指導観

指導にあたっては、パート練習の環境を整えることに配慮して、授業準備を行う。まずは、自分のパートで自信をもって歌うことを重点的に活動を進めていく。ソプラノパート、アルトパート、男声パートそれぞれの音源を用意し、合唱リーダーを中心に、パートごとに練習をさせる。パートごとに立てた目標を振り返りながら活動を進めることで、課題を見つけたり、達成感を味わわせたりしていくように指導する。また、CDの音源に加えて、ピアノの音でも音程を確認させることで、正確な音程を丁寧に身に付けさせていく。

本時では、歌唱表現の工夫について考えさせる。表現の工夫についての意見を発表することは、日頃の授業で消極的な生徒が多い。本時においても、何が良い合唱なのか、はっきりと意見をもてない生徒がいるのではないかと考える。そのため、合唱コンクールの審査基準をヒントに、「良い合唱とは何なのか」、「自分たちの合唱をどのように変えていけばよいのか」という点に着目させ

て発問や指導を行う。その際には、歌唱技能の知識を併せて説明することで、生徒に練習方法のアイデアを考えさせていきたい。

また、「A 表現(1)ア」と「A 表現(1)ウ」を達成させるために、歌詞の内容を音楽の表現にどう結び付けたいか考えさせたり、自分たちの演奏を録音して客観的にとらえることで、全体の響きを大切にしたい発声について気付かせたりする活動を進めていきたい。

## 題材の目標

- (1) 歌詞の内容や曲想を感じ取って表現を工夫することができる。
- (2) 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱することができる。

## 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きに関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素(旋律、テクスチュア、強弱)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図を持っている。	①歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現をするために、必要な技能を身に付けて歌っている。

## 資質・能力と評価の観点とのかかわり

本校の育てようとする資質・能力			評価の観点				
			関	創	技	知	
知識						○	
スキル	思考力・判断力・表現力	思	①学習したことを使って、自分の考えをまとめる力 ②根拠をもとに、正しい判断をする力 ③よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力 ④自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力	○		○	
意欲態度	主体的に学ぶ力	主	①自ら考え、判断し、行動する力		○		
価値観倫理観	他者とのかかわる力	他	①他者と協力(協働)して、課題を解決しようとする力 ②他者との関わりを通して自分の考えを深めたり広げたりする力		○		
	社会貢献力	社	①地域のよりよい社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力				
	自己形成力	自	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力 ②自信を持つ力				

## I 学習内容とII学習活動, III題材として育てたい資質・能力のつながり

I 混声合唱の活動において、II 課題を見つけ、よりよい発表に向けて練習に取り組ませることで、III 自らの考えをもち、工夫して歌唱表現する力を育てる。

## 題材の終末におけるパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準
合唱コンクールのリハーサルをしよう。	A 正しい音程で、響きのある発声と豊かな表情を意識して歌うことができる。

	B	正しい音程と曲にふさわしい声量で歌うことができる。
	C	曲にふさわしい声量で歌うことができる。

## 指導と評価の計画

時	学習過程	学習内容	評 価			
			関	創	技	評価規準 (評価方法)
1	課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲のゴールイメージをもち、楽譜に書いてある情報を読み取って練習する。</li> </ul>	○		アー① (ワークシート)	◇資質・能力育成場面 <b>【資質・能力】</b> ◆資質・能力評価場面 <b>【資質・能力】</b> (評価方法)  ◇映像や楽譜に書いてある情報を整理・分析し、どのように歌いたいのか、自分の考えをまとめさせる。 ◆【思-①】 (ワークシート)
	情報の収集					
2	整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>他のパートとの関わりを理解して歌う。</li> </ul>	○		イー① (行動観察)	
3	まとめ・創造・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>合唱コンクールの審査基準をもとに課題を見つけ、表現を工夫する。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>【本時】</b></p>	○		イー① (行動観察, 発表)	◇よりよい演奏発表を行うために、課題を見つけ、その解決方法を考えさせる。 ◆【主-①】
4	まとめ・創造・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で本番に向けたリハーサルをする。</li> </ul>	○		イー① (行動観察)	◇他者と関わりながら、自らの考えを深めさせる。 ◆【他-②】
5	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>題材全体の振り返りをする。</li> <li>実技テスト (発表形式)</li> </ul>	○		ウー① (実技テスト)	◆【思-④】 (実技テスト)

## 本時の学習

(1) 本時の目標

よりよい合唱に向けて課題を見つけ、表現を工夫しながら歌うことができる。

(2) 準備物

CD デッキ (3パート分), CD (3パート分), 評価基準シート, ホワイトボード (3パート分), ワークシート, 合唱練習カード

(3) 学習展開 (3限目/5)

まとめ・創造・表現

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法) 【資質・能力の評価】
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の復習をする。</li> <li>・本時のめあてを確認する。</li> </ul>	○CDで「大切なもの」の合唱をして、振り返る。	
	<p style="text-align: center;"><b>【本時のめあて】</b> よりよい合唱に向けて課題を見つけ、表現を工夫しながら歌うことができる。</p>		
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱を録音する。</li> <li>・合唱コンクールの審査基準を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○練習カードを配布し、本時のめあてを確認する。</li> <li>○録音機器で録音する。</li> <li>○合唱コンクールの<u>審査基準</u>を示す。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音程、各パートのバランスに気を付けて歌えているか。</li> <li>・美しい響きを出すよう、声の出し方や口の開け方が工夫されているか。</li> <li>・歌詞の意味を読み取って、豊かな表情で歌えているか。</li> </ul> </div>	<p>イー① ◇よりよい演奏発表を行うために、課題を見つけ、その解決方法を考えることができる。</p> <p><b>【主①】</b> (発表, 行動観察)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱の録音を聴き、パートごとに課題を考える。 (J)…じっくり考える)</li> <li>・各パートで決めたことをもとに、パート練習をする。 (K)…くり返し挑戦する)</li> <li>・合唱を行う。 (H)…はっきり表現する)</li> <li>・再び、合唱を録音する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パートごとに課題をホワイトボードに書かせ、本時のパート練習で取り組むことをパートごとに決めさせる。</li> <li>○各パートの実態に合わせて、声かけを行う。</li> <li>○ひな壇に整列させて、合唱させる。</li> <li>○苦手意識のあるところは、部分的に取り出して合唱練習させる。</li> <li>○本時で出てきたパートごとの課題を、再度意識させてから進める。</li> </ul>	
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・録音を聴き、本時の練習で効果的だったことを、パートごとに振り返る。 (例) 「～の練習をして、～が良くなった。」</li> <li>・本時の振り返りを、練習カードに記入する。</li> <li>・次時の授業について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホワイトボードの振り返り欄に記入させ、発表させる。</li> <li>○本時のクラス全体の練習の様子を振り返る。</li> <li>○練習カードに個人の振り返りをさせる。</li> <li>○次時の授業の予告をする。</li> </ul>	

## 合唱練習カード

(        ) R    (        ) 番 名前 (        )

### 1 楽曲について

	曲名	作詞	作曲
(◆全校合唱曲)	_____	_____	_____
(◇自由曲)	_____	_____	_____

### 2 1回聴いた感想、もったイメージ、この曲をどんなふうに歌いたいか

(◆全校合唱曲)
(◇自由曲)

### 3 授業の記録

(自己評価 ◎ ○ △)

月 日	曜 日	目標	内容	目標の振り返り ・残された課題	自己 評価	甲
/		自分のパートの 音を歌えるよう になろう。				
/		他のパートと合 わせて歌おう。				
/		よりよい合唱に向 けて課題を見つ け、表現を工夫し て歌おう。				
/		合唱で伝えたい ことを考え、発表 練習の仕上げを しよう。				

### 4 題材全体の振り返り
